

令和2年度学校自己評価システムシート (県立川口北高等学校)

目指す学校像	知性と教養を身に付けるとともに、高い志と品格を備え、互いに高め合い敬い協力し合う、日本及び国際社会の進展に貢献する生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 自ら勉学に真摯に取り組む姿勢により学力の向上を図る。 2 満足度の高い生徒全員の進路希望の実現を図る。 3 文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図る。 4 家庭、地域、小中学校との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

今年度は2回とも書面により意見・要望・評価等をいただいた。		
出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年度評価 (1月31日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	臨時休業の長期化により、学習の遅れ、学力や自学自習の現状把握の不足、精神的不安の増大等がある。 そのため、学校再開前に可能な限り生徒をサポートする。 再開後は、「新しい学校生活」の中で、学習遅れの挽回、アクティブラーニングの工夫・改善、自学自習の一層の定着、学力の把握や実力に応じた指導、精神的不安の解消等に組織を挙げて対応することが課題である	授業を充実させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	①教育情報部が中心となり、早期にGoogle Classroomを構築し、全校体制で積極的に課題提供や動画配信を行う。また、再開後は、動画配信等の効果的な活用を検討する。 ②アクティブラーニングを工夫・改善する。 ③全教職員の協力の下、毎週の土曜授業、県方針を上回る夏休みの短縮、3年を優先した分散登校等により授業確保を行う。	①動画等の配信数と配信時間等 ②「新しい学校生活」に即したプロジェクトによる効果的な授業実践 ③「新しい学校生活」に即した未来を拓く「学び」プロジェクトの取組状況 ④授業以外の学習時間 ⑤予習・復習の取組状況 ⑥個別面談の実施状況	休校中は動画配信とリモート授業等、再開後は授業確保とICT活用等、全校体制で主体的な学習習慣の確立と授業の充実に取り組んだ。 ①動画配信(約300本)、課題の提出、リモートによるSHR・LHR・授業等の実施。 ①出席停止生徒等にリモート授業を実施。 ②発問ごとの生徒同士の対話、まとめ、発表等の取組をほぼ全教員が実施。 ③夏季休業日16日間の縮減、土曜授業21回実施等による授業確保。 ③再開直後6月、9月、11月、2月に統一して個別面談を実施	A ・ICTを活用した動画配信や授業の量的拡大から個人のスマートフォンやタブレットを利用した質的充実に取り組む必要がある。 ・進学校経験の浅い教員数の増加から、主体的に授業の研究と修養に傾注し全校体制で授業力を向上する必要がある。 ・引き続き土曜授業の意義を全職員で共通理解し全校体制で実施していく。
2	臨時休業の長期化により、年次に応じた高い志と高い進路意識の高揚、考査や模試による学力の把握等が不十分であり、生徒の不安も増大している状況もある。 そのため、学校再開前に可能な限り生徒をサポートすることが重要である。 再開後は、「新しい学校生活」の中で、具体的な取組を実施し、高い志と高い進路意識の高揚、学力の把握や実力に応じた指導、精神的不安の解消、大学共通テストへの対応等を、組織を挙げて対応することが課題である。	高い志を育み、高いレベルでの進路実現を支援する取組を充実する。	①3年生では夏季休業中に臨時的に面談週間を設定する。 ②キャリアブックを活用し、キャリア教育を充実させる。 ③模擬試験分析、受験校検討会を実施し、個に応じた指導を行う。 ④動画やリモートを活用する等、難関大セミナー、県立大セミナー等を充実する。 ⑤新大学入試制度に対応した指導を研究、実施する。 ⑥新調査書への対応を適正に行う。	①3年生の志望先などの進路意識の状況 ②キャリアブックを活用した取組の実施状況 ③模試分析会、受験校検討会の実施状況 ④各種セミナーの実施回数や動画配信数 ⑤国公立大学受験者数と合格率 ⑥私立難関大学受験者数と合格率 ⑦新大学入試制度への対応状況 ⑧新調査書への対応状況	学年と進路指導部の連携により組織的・統一的に生徒の状況把握に基づいて学習指導・進路指導に努めた。 ①国公立大前期出願者数112名。(昨年134名) ②1・2学年で新規にシートによる目線合わせを毎月実施。情報共有の下発達段階に応じて統一した指導を実施。 ③受験校検討会を7月、10月、12月、1月に実施。その都度担任による個別指導を実施。 ④県立大セミナー、難関大セミナー等の実施。 ⑤⑥新大学入試制度や新調査書への対応は進路指導部・教育情報部・3学年が連携して適切に対応。	A ・コロナ禍の休校等により生徒・保護者の不安感が増大する中、オンラインによる進路指導が多く、大学の先まで見通した進路指導の徹底が難しかった。 ・コロナ禍による進路指導は困難を要したと思います。このような中、個に応じた指導やセミナーの実施等、寄り添った進路指導により生徒は安心して受験に向かうことができています。 ・入試においても、先行き不透明な状況の中、不安感や焦燥感からできるだけ早く進路先を決めたいというのが生徒さんや保護者の本音でしょうか。自分の意志や目的意識を強固なものとしてできるような進路指導、キャリア指導が求められているのでしょうか。期待いたします。
3	臨時休業の長期化により、基本的な生活習慣の乱れ、体力低下、部活動等へのモチベーションの低下、「チーム川北」の意識不足、大会中止等の焦燥感の増大等がある。 そのため、学校再開前に可能な限り生徒をサポートすることが重要である。 再開後は、「新しい学校生活」への早期定着、基本的な生活習慣の構築、体力の把握、部活動への高い志や「チーム川北」の意識の高揚、精神的不安の解消、保護者との共通理解を深めること等に、組織を挙げて対応し、文武両道の校風を堅持していく。	生活マネジメント力を向上させ、文武のバランスをとって取組を充実する。	①保健環境部が中心となり、県のガイドラインに基づき「川北セーフティライン」を定めて徹底した感染症防止策を講じる。 ②「新しい学校生活」の早期定着と、マナーを守り、挨拶・身だしなみ・私物の管理などに対する意識を高める。 ③生徒が自律的に学習と部活動を両立する指導体制を確立し、生徒一人一人が自ら計画的に時間を管理する。 ④スクールカウンセラーと教員との連携によりメッセージビデオを配信する等効果的な指導を行う。 ⑤教養主義の下、高いレベルでの文武両道や体力向上を目指す新学習指導要領における教育課程を編成する。	①感染防止対策の状況 ②挨拶・服装・清掃の実施状況 ③スマートフォン等の校内外の使用状況 ④ロッカーの施錠状況 ⑤部活動の加入率 ⑥部活動の実績 ⑦生徒の出席状況(遅刻数) ⑧部活動の活動状況や休業日の設定状況 ④教育相談の状況 ⑤教育課程の編成状況	全校体制で感染防止対策を徹底し、様々な制限の中で工夫して文武両道を実践できた。 ①県のガイドラインに則った「川北セーフティライン」による対策の徹底。 ②在校中はロッカーでの管理を徹底。 ③遅刻数年間775回(12/31現在)と昨年より増加。生徒指導案件0件。 ④部活動の加入率は95.7%、大会等は多くが中止。 ⑤SCとの相談8日、延べ28人の生徒・保護者が利用。相談後に担任・学年・教育相談・管理職等が連携してサポート。 ⑤新教育課程編成は完了。	A ・「川北セーフティライン」に則り感染防止対策を引き続き徹底し、学校生活での不安の解消に努める。 ・今後もきめ細かく粘り強く指導し「凡事徹底」を意識して主体的に行動できるようにする。 ・コロナ対策を万全に講じて、充実した学校行事・部活動等を実施していく。 ・遅刻数が増加傾向にあるので、早めの登校を呼びかけ、心身ともに余裕をもって十分な準備をして「威風堂堂」と過ごす生徒を増やす。 ・BYOD導入により、個人スマートフォンの新規ルールを作る必要がある。
4	臨時休業の長期化により、保護者・地域・小中学校との連携が希薄化している。本校の魅力を伝えるための取組も滞っている。 そのため、「新しい学校生活」の中で、保護者との連携の取組や、本校の魅力をより効果的に伝えるための学校説明会等広報活動の取組を工夫・改善していく必要がある。 また、地域や小中学校でのボランティア活動においても同様にいく工夫・改善していく必要がある。	積極的な情報提供に努め、保護者・地域・小中学校との連携・協力を推進する。	①教務部広報グループが中心となり、川北キャンパス通信を発行し、学校説明会の内容の工夫・改善する。 ②HPや新しいメール配信システムを有効利用して保護者への情報発信を行う。 ③保護者と連携を密にし、PTA活動を一層活性化させる。 ④地元小中学校や地域との交流や、地域のボランティア活動を充実する。	①学校説明会、授業公開等の参加者数 ①学校見学会、上級学校訪問、塾・中学校主催説明会等の対応数 ②タイムリーな情報発信 ②ホームページでの情報提供回数 ③メール配信による情報提供回数 ③行事などの保護者等の来校者数 ④小中学校や地域との連携回数	ICT活用、HP掲載、一斉メール配信等、工夫して積極的な情報発信した。 ①オンライン学校説明会(HPに動画掲載)は1000人を上回る視聴登録、教室利用によるリモート学校説明会、2回の個別説明会にはのべ1400人が参加。全教員による約150校への中学校訪問。 ②新規に各部活動や1年生代表者による中学生への応援メッセージ動画配信。(HP更新数220回) ③修学旅行中のメール配信。(メール配信数92回)	B ・今年度生徒募集に苦戦したことから、来年度は学校説明会、土曜授業公開、HP、中学校訪問、塾訪問等の年間計画・実施方法等を見直す必要がある。 ・ホームページの利用、メール配信は連絡ツールとしてありがたい情報です。北高教職員による組織ぐるみの取組を感じます。・学校の魅力、売り物、その差別化やお得感。普通科の進学校として難しい課題だと思います。(進学先や進学率だけでなく結局同ような情報提供にならざるを得ない)。ただ、常にバージョンアップが必要なのでしょうね。中学校での進路指導の経験から保護者と生徒は可能性のある学校を「比較」して決定するのは間違いありません。

学校関係者評価	実施日 3年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・コロナ禍での様々な形態による授業展開が実施されたこと、大変なご苦労があったことと思います。「大変」とは「大きく変わる」こと、先生方の力量が問われます。今後とも教職員一人一人が研鑽に努められ、確かな指導力を身につけてほしいと思います。</p> <p>・Google classroomを参考にしなかったです。</p> <p>・土曜授業の実施には頭が下がります。進学校経験の浅い教員と合わせて若手の教員も多くなってきていると思います。授業力の向上は最大の課題であると考えます。・臨時休業期間を含め、動画配信300本は素晴らしい取り組みです。先生方の努力は生徒に伝わっていると思います。</p> <p>・進学校を目指す中学生にとって、大学への進学状況に注目しています。川口市の進学校として益々力を入れていただければありがたいと存じます。</p> <p>・コロナ禍による進路指導は困難を要したと思います。このような中、個に応じた指導やセミナーの実施等、寄り添った進路指導により生徒は安心して受験に向かうことができています。</p> <p>・入試においても、先行き不透明な状況の中、不安感や焦燥感からできるだけ早く進路先を決めたいというのが生徒さんや保護者の本音でしょうか。自分の意志や目的意識を強固なものとしてできるような進路指導、キャリア指導が求められているのでしょうか。期待いたします。</p> <p>文武両道どちらも全力で取り組むのが北高生という強いイメージがあります。とても素晴らしい校風と伝統だと思います。それについていけそうにないと自覚している生徒は隣接の高校へ志望していると思われま</p> <p>・文武両道の推進は北高の特色です。感染防止対策を講じながらの教育活動の前進を感じます。特に体育祭、修学旅行の実施は生徒にとって良い思い出です。</p> <p>・改めて学校のよさ、学校でしかできないこと、学校で行うことこそ有効なことが浮き彫りになったのではないのでしょうか。こうしたものの再確認、整理と共に教員や生徒で共有することこそ大切だと思います。生徒それぞれ本気になることは多様だと思いますが、それを手厚くサポートできる組織体制の構築が重要なのではないかと。(期待感と満足感)</p>	
<p>来年度コロナが収束した際には夏の学習ボランティアのご協力をいただければ大変助かります。川口の希望の星、北高1益々の発展を祈念しております。</p> <p>・ホームページの利用、メール配信は連絡ツールとしてありがたい情報です。北高教職員による組織ぐるみの取組を感じます。・学校の魅力、売り物、その差別化やお得感。普通科の進学校として難しい課題だと思います。(進学先や進学率だけでなく結局同ような情報提供にならざるを得ない)。ただ、常にバージョンアップが必要なのでしょうね。中学校での進路指導の経験から保護者と生徒は可能性のある学校を「比較」して決定するのは間違いありません。</p>	